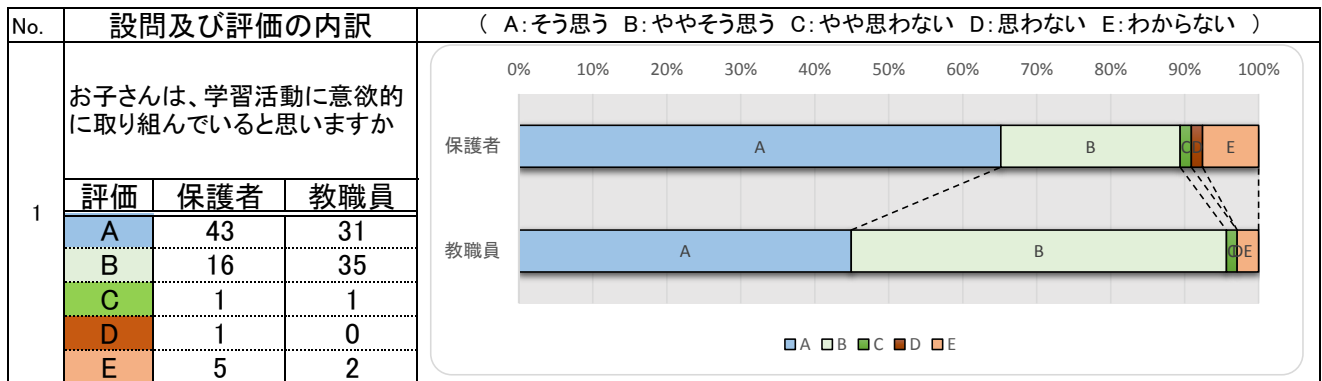


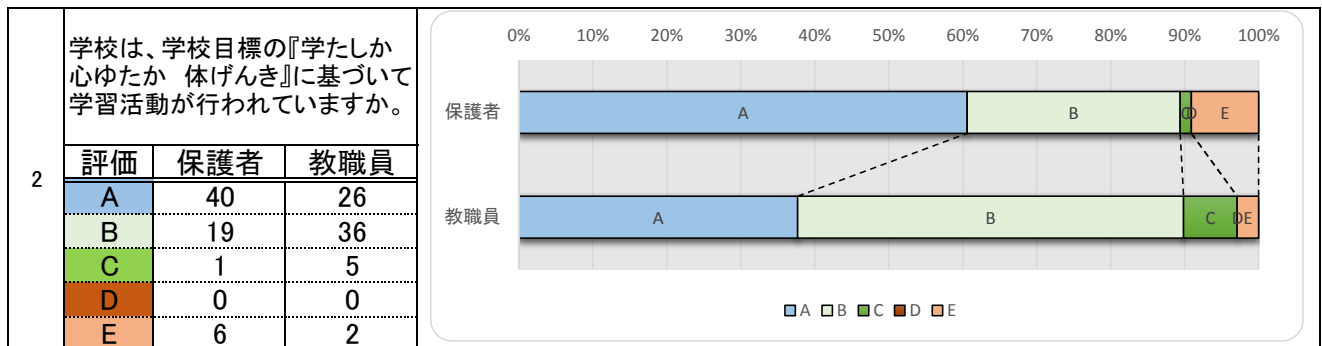
## 結果の考察と来年度に向けての課題

長野県寿台養護学校 学校評価委員会

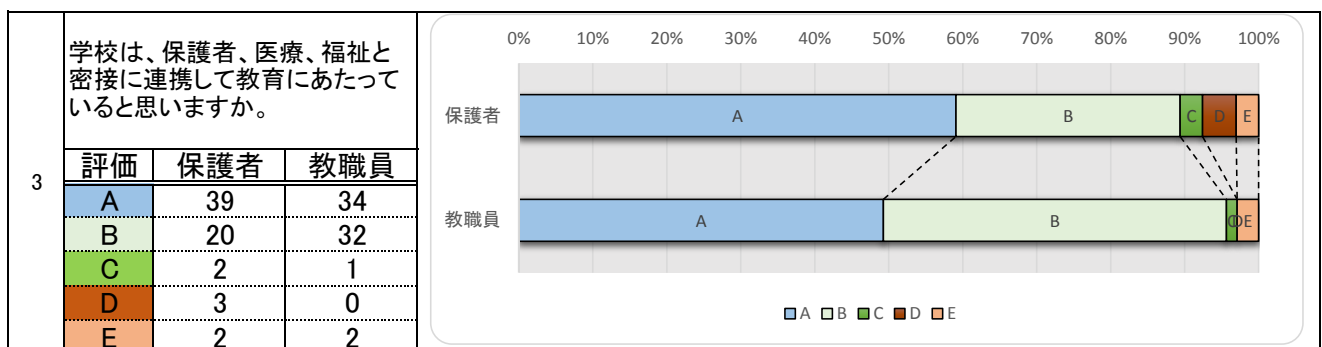
- アンケート回収率について  
保護者78% (昨年64%)  
教職員100% (昨年91%)  
\* 集団も人数も大きく変わったが、アンケート回収の呼びかけの成果もあり回収率は昨年度よりも向上した。
- アンケートの実施形態について  
\* 知病併置校としての実態に合わせてアンケートの質問事項を変更した。
- アンケート結果の考察と改善策  
\* 以下、本年度のアンケートの各設問について、項目ごとに考察、並びに改善策を記していく。



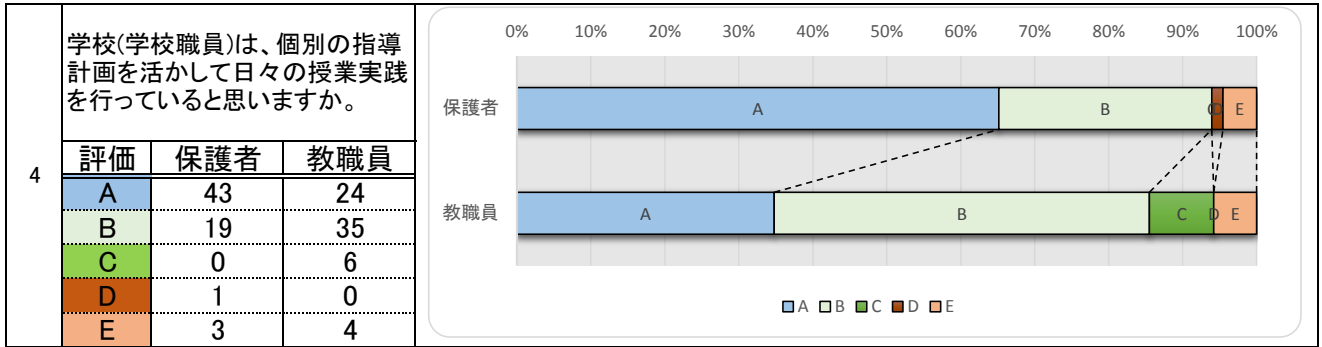
高い評価をつけている保護者が多い反面、不十分と考えている保護者がいるということを常に念頭に置きながら、今後も児童生徒の個々の興味関心を大切に自己肯定感を育むような教育支援にあたりたい。



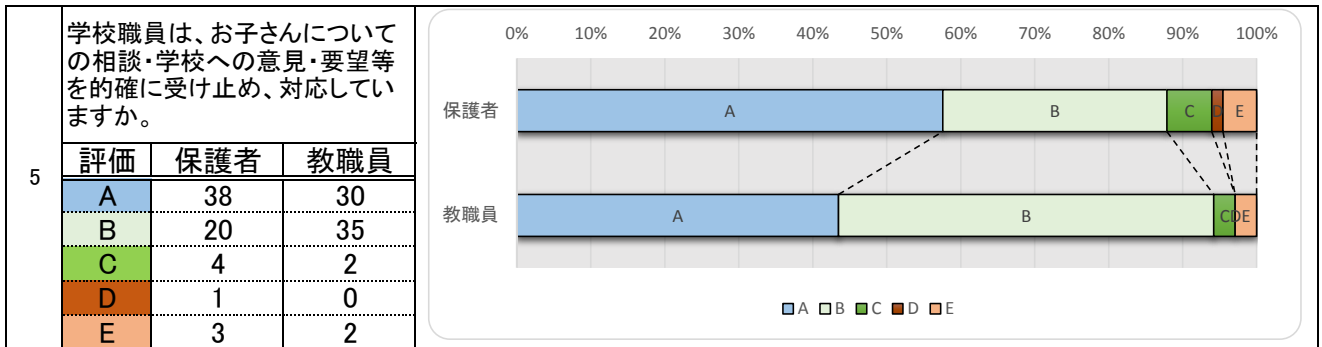
保護者の“わからない”、職員の“不十分”の意見を大切にし、学校目標の3本柱に基づいた学習活動を各部でよりわかりやすく、より具体的なものにしたたり、教育課程を見直したりしていきたい。



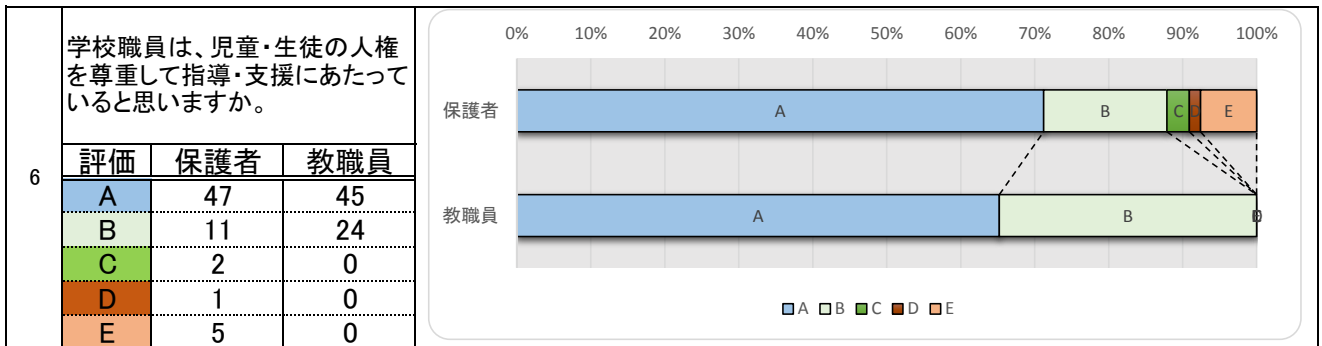
支援会議等で確認されたことが教育活動に確実に反映され、成果や課題を関係機関と共有していくサイクルをさらに構築していきたい。また、家庭・関係機関・学校が三位一体となって進められるような連携をより強化していきたい。



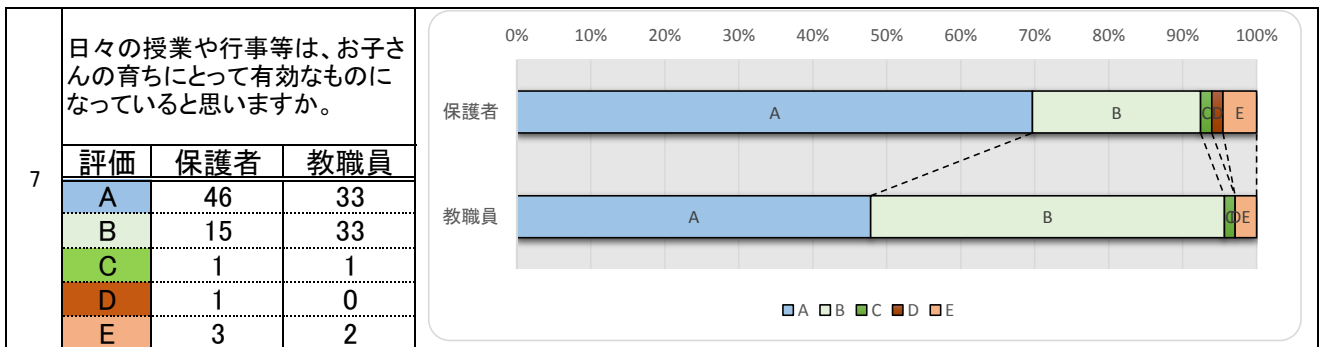
個別の指導計画をもとにした教育活動の推進を計画的に進めてきている。反面、活用にはまだまだ不十分とする意見が職員から寄せられている。様式の工夫や活用の仕方を引き続き研究するとともに、家庭へもよりわかりやすく伝えられるよう工夫をしていきたい。



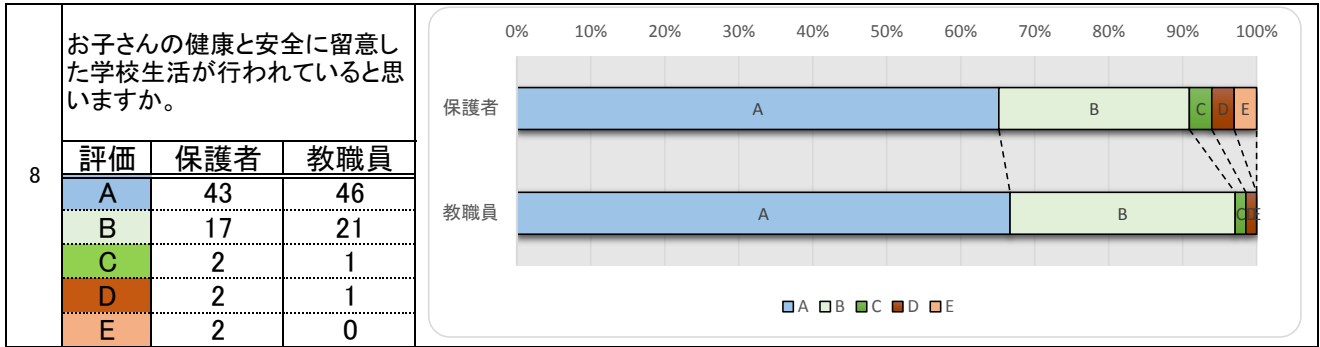
常に保護者の意見や要望、不安などに耳を傾け、情報提供や相談には丁寧に速やかに行い、保護者が安心できるように努めたい。



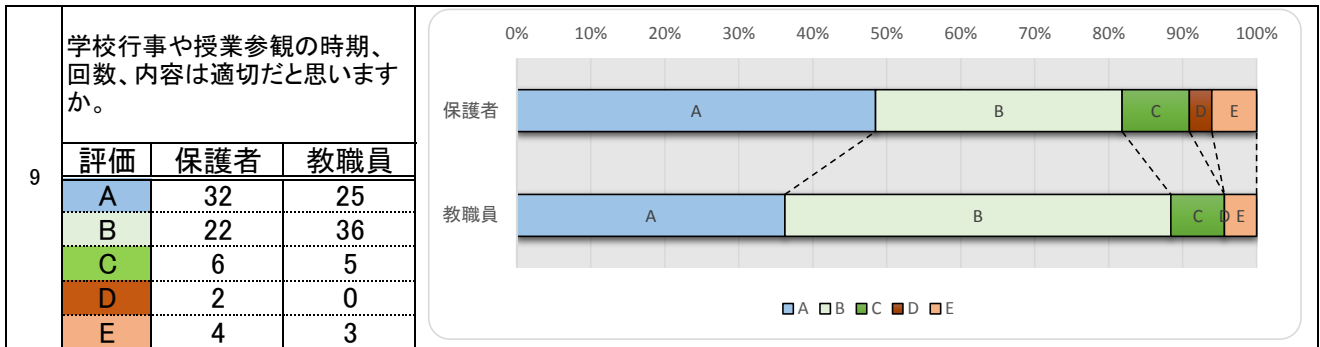
「保護者と職員の意識のズレはないか」、「児童生徒を～さんと呼ぶ」、「子どもに寄り添った支援・指導になっているか」など職員自ら人権感覚を磨いていくことを意識したい。



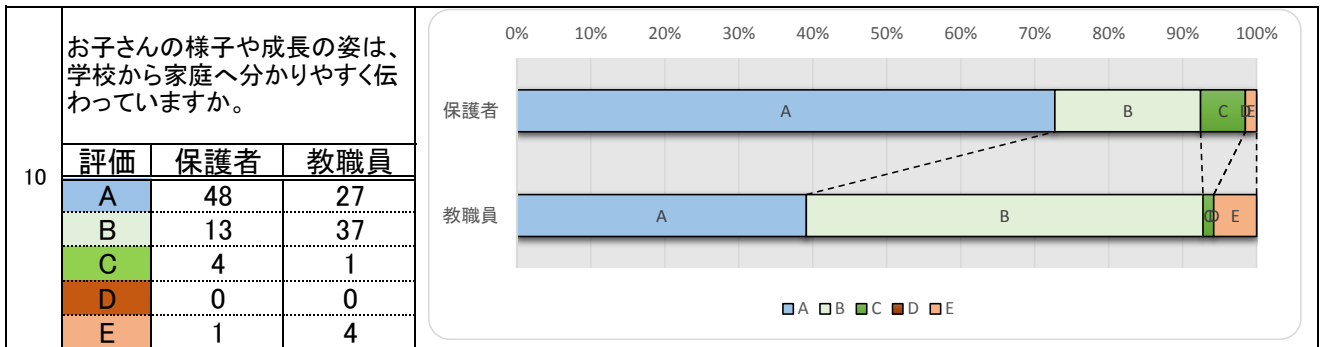
教室の誰もがわかる授業を目指し、自らの専門性を高めあう職員集団を目指したい。また、授業の様子や成果を保護者へも発信できる方法を工夫していきたい。



不十分とする保護者や職員の意見を参考に、日々の学校生活の安全、災害時の対応、施設面の改善などにさらに力を入れていきたい。



保護者、職員ともに不十分とする評価が多かった。保護者の要望を把握し、いただいたご意見等を参考にしながら、児童生徒の成長にとって必要な行事を決めだして実施したい。また、参観日の回数や内容については今年度の反省を元に新たに提案したい。



連絡帳、通信、懇談会、送迎時、通知表(家庭連絡票)等、それぞれの文章や場面で伝える内容を整理して児童生徒の成長の姿をわかりやすく家庭に伝えられるように努めたい。

#### 4 年度比較による考察

知病併置校の1年目として、新たな評価項目でのアンケート実施のため、年度比較による考察は来年度行う。

#### 5 学校評価委員会考察(まとめ)

アンケートに寄せられた意見をみると、松本養護学校から転入学してきた児童生徒の保護者の中には、松本養護学校と比較しての不安を、病弱教育部門の児童生徒の保護者の中には、併置校となった事による不安を、それぞれ感じている保護者がいることがわかり、それも評価に含まれたと思われる。今年度のアンケート結果より得られた改善へのヒントを日常的な教育活動へ活かすことで、知病併置校2年目となる来年度は、『保護者が安心して通わせられる学校』を職員全員でより一層目指したい。

##### (1) 学校評価アンケートからみた本年度の成果

- ① 学校教育目標に基づき教育活動を行うことで、保護者への理解が深まった。
- ② 各部ともに新たな環境で落ち着いた生活・学習ができるようになった。
- ③ 個別の指導計画に基づく教育支援・授業実践が行われた。
- ④ 学校の様子を家庭へわかりやすく伝えることができた。

(2) 今後も継続的に取り組むこと

- ① 楽しい学校づくり → 教育課程や行事の更なる工夫
- ② 個別の指導計画の活用 → 様式の工夫・具体的な活用法の研究

(3) 課題となった項目・来年度大切に取り組みたいこと

- 【1】 人権を尊重して指導・支援にあたる → 職員の人権感覚の向上
- 【2】 確実な防災安全対策 → 3つの学び場のあらゆる事態を想定した防災対策
- 【3】 学校行事・参観日について → 回数や内容について各部と調整しながら提案

6 学校評議員会からの意見

- ・ 集団も人数も大きく変わる中、先生方のきめ細やかな目線が注がれ、これから様々なことが構築されていく様子がわかった。
- ・ ICTを利用した学習も有効。卒業後の実社会にもつながる学習も大切である。
- ・ 地域の中の代表として、寿台養護学校周辺の交通環境について、子どもの人数も増えるということから、セブンイレブン松本牛伏寺下店の交差点に信号機の設置の要望書を松本署に提出した。過日その要望書が通過したので、順次設置となっていく見込み。安全性が高まることに期待している。
- ・ 評価項目3の「連携」について、細かい連携がとれていると、統一したかわりをもつことができ、子どもにとっても良い。福祉の立場としても学校とオープンな関係を築き、できることを一緒に考えていきたい。
- ・ 保護者の方から良い評価をいただいている。さらに安心していただくために、保護者・支援者を含めた会議を開き、隙間のない支援をするための連携を目指してしていく必要がある。
- ・ 連携に関して、手厚い支援を受けられる学校環境から、卒後、地域へ出たときにもサポートを変わずに受けられるようにするため、学校が積み上げてきた情報をいかに地域や次に支援にあたる場所へ伝えていくのかが大きな課題だと思う。
- 途切れない支援、隙間のない連携を目指して、学校としてできること、連携をお願いすることを明確にして取り組んでいきたい。
- ・ 病院も人権感覚を磨くための取り組みを見直している。特に虐待に対して、自分の気持ちを表現できない方への対応は課題であるが、学校はどのように対応しているのか。
- 非違行為防止研修を計画的に実施している。また、日々お互いの支援の仕方や声かけ等について振り返ったり、折に触れて校長より講話や注意喚起を行ったりして、絶対にしないという決意で全職員が臨んでいる。